

会 議 結 果 の お 知 ら せ

宮古・田老・新里・川井地域づくり協議会4地区合同会議を次のとおり開催しました。

令和6年7月22日

宮古・田老・新里・川井地域づくり協議会

1 開催日時

令和6年7月8日（月）13時30分から15時10分まで

2 開催場所

宮古市市民交流センター 会議室1・2

3 議題

（1）令和6年度の施策の概要について

（2）意見交換

4 会議の概要

別添のとおり

5 問い合わせ先

企画部企画課地域創生推進室 電話0193-65-7056

宮古・田老・新里・川井地域づくり協議会4地区合同会議 開催結果

1 出席者（23名）

【宮古地域づくり協議会】

戸由忍、越田則夫、中崎則男、小野寺靖、佐可野瑞穂、小地沢一郎、大上敦子

【田老地域づくり協議会】

八重樫則夫、高屋舗峰子、湊富治子

【新里地域づくり協議会】

川崎賢一、敬礼明男、褰岩宗生、大河原稔範、上村篤子、久保田将登

【川井地域づくり協議会】

長鈴秀夫、坂本百洪、橋本聡、去石徹、尻石光男、前川登代美、石川巧

2 市出席者

市長・山本正徳、副市長・桐田教男、教育長・伊藤晃二、総務部長・下島野悟、企画部長・多田康、エネルギー・環境部長・三上巧、市民生活部長・若江清隆、保健福祉部長・三田地環、産業振興部長・岩間健、産業振興次長・小成勝則、農林水産振興次長・飛澤寛一、都市整備部長・藤島裕久、上下水道部長・中嶋剛、危機管理監・芳賀直樹、議会事務局長・前田正浩、教育部長・佐々木勝利、会計管理者・菅野和巳

3 事務局

企画部企画課	課長・箱石剛、地域創生推進室長・竹田真吾、主任・千葉志美
田老総合事務所	所長・久保田亮二、地域振興係長・山本恭彦
新里総合事務所	所長・蒲野栄樹、地域振興係長・和美邦彦、主査・高橋真
川井総合事務所	所長・北舘克彦、地域振興係長・嶋崎愛子、主査・野崎喜代子

4 傍聴者

なし

5 議事等

13:30 企画課長が会議の開会を宣言

13:31 市長挨拶

13:35 説明【宮古創生～多様な個が輝くまちづくり～】

14:15 意見交換

15:05 総括

15:10 企画課長が会議の閉会を宣言

今年度の施策等について市から説明した後、意見交換を行った。（詳細は別紙のとおり。）

意見交換の内容

質問・意見	回答
(委員) 立地適正化計画のまちづくり方針にある「地域特性」をどのように捉えているか。 また、「若者に選ばれ、若者が活躍できるまちづくり」とあるが若者の意見を吸い上げるためにどのような方法をとっているか。 地元の高校を卒業し、宮古管内に就職する人の数がとても少ないと知った。企業の力で就職者を増やすのは難しい。産官学の協力が必要と考える。	(市) 地域特性は、各地域の資源・施設を調査したうえで位置づけている。 若者の意見を集約するために、市民交流センターで「どんなものがあったら良いか」付箋に書き、貼ってもらう取り組みをした。また、NPO法人みやっこベースに協力いただき、ワークショップを行った。今後は、20代・30代向けのワークショップを企画している。 (市) 毎年、宮古管内の高校向けにアンケートを実施している。高校卒業後は進学6割、就職4割という状況である。男女比を見ると、女子の進学率が66%で男子よりも高い。 進学した生徒のうち、宮古に戻ってきたいという方は18%。まだどこに就職するか分からない方が53%。 アンケートでは、地元でインターンシップを実施してほしい・地元企業について知りたかった・地元で夢を持って活動している方を知りたかったという記載があった。 そのため、若者就職活動支援補助金、みやこテクノフェスタを始めた。
(委員) 子どもが楽しめる室内遊び場が欲しい。 宮古の観光は、浄土ヶ浜に限定されていると思う。他のコンテンツがあれば良い。	(市) 宮古市地域創生センター「うみマチひろば」に室内の遊び場を整備した。つどいの広場「すくすくランド」も併設されている。 若い世代から屋内型複合レジャー施設を望む声がある。天候等にかかわらず、時間を気にせず遊べる場所が欲しいという意見だと理解している。ワークショップ等の意見を整理して、どのように施策を反映できるか考えていきたい。 (市) 浄土ヶ浜は、宮古・三陸を代表する景勝地だが、市内には、三王岩・津波遺構たろう観光ホテルなどの見どころもある。 みちのく潮風トレイルや日本ジオパークに再認定された三陸ジオパークもあり、学びの場ともなっている。 見るだけではなく、遊覧船宮古うみねこ丸や青

みやこテクノフェスタや高校生しごとメッセの開催により市内企業に就職する方もみられた。これらのイベントはモノ作りがメインの内容になっているが、漁業や農業等の体験・見学もできれば良いのでは。

道路維持について、草刈りをしていただいているが、道路上に伸びてきた樹木の伐採も対応いただきたい。

溪流釣りが始まり、路上駐車や民家への侵入、竿を人や車に向けて歩くなどマナーの悪い方が見られる。注意啓発していただけないか。

(委員)

今年度もたくさんの客船が寄港する。防災無線での放送は寄港日ではなく前もって行ってほしい。

先日、JRのきっぷで106バスを利用した。バスの利用は便利だが、JR山田線の利用も促してはどうか。

106バスの最終便が運休になっていて不便。

少子化対策で補助金・無償化などの取り組みをしているが、そのような取り組みによって「子どもを産もう」とは思わないのでは。

の洞窟サップ船遊覧への乗船、シーカヤック・SUPの体験なども広げていきたい。

(市)

子どものころに農業・林業・漁業を体験することで就業につながるのではないかという意見はこれまでもあった。

子どもたちが地元の産業を知らないということがないように取り組んでいきたい。

(市)

場所を教えていただければ対応する。

(市)

市の公式LINEから道路損傷サービスを利用できるのでご活用いただきたい。

(市)

釣りのマナーについては、閉伊漁業協同組合等を通じて働きかけてまいりたい。

(市)

広報、ホームページ等で周知している。

前日に放送しているが、周知の方法を検討したい。

(市)

JR山田線は、4～6月に工事が行われ運休が多かったので、バスを勧めたのではないかと考えた。

106バスは、現在平日13往復、土日祝は10往復の特別ダイヤが続いている。コロナ禍前の7割ほどの便数である。東京と宮古を結ぶ高速バスも毎日運行していない。コロナ禍後の利用が戻らず、バスが増やせないそう。利用して、応援していただければと思う。

(市)

全国に比べて宮古の若者の所得は50万円ほど低い。その中で子どもを産み育てるのは難しい。所得が増えれば、支援は必要ないかもしれない。習い事など子どもに係るお金も増えている。

結婚・出産に対する祝い金の支給は行っていない。子育てにかかる費用をみんなで負担していこうという考えで取り組んでいる。ご理解いただけ

(委員) 昨年度、冷蔵庫の購入に対する補助制度があった。長いスパンでみんなが平等に補助金を活用できるような制度にしてはどうか。 (委員) 待機児童数は毎年0人となっているが、周囲から入れないという声を聞く。毎年4月時点の数値であるが、12月・1月に待機児童数を確認して、公表していただけないか。 若い方から、市に意見を聞き入れてもらえないという声を聞く。 色んな意見を聞いてもらいたい。そうすることで、宮古に戻ってくる子どもたちが増えるのでは。楽しんで仕事をしている大人を見せていただきたい。 (委員) 旧キャトルを来年度解体すると伺った。今後のスケジュールを教えてください。	ればと思う。 (市) 家電のうち最も電気を消費しているのが冷蔵庫だったため、キャンペーンという形で補助を行った。 今年度は、省エネ設備の導入補助に取り組んでいる。エアコン・照明・給湯器などを対象に、上限額は50万円ほどとなっている。令和9年度まで継続したいと考えている。 (市) 国の基準で、特定の施設への入所を希望している場合は、待機児童数に含まれないこととなっている。 園を選ばずに入所を希望した方が入れない場合に待機児童となる。 今後は必要に応じて、12月・1月時点の待機児童数を示したい。 (市) 話を聞くようにしている。 具体的な内容を教えていただければ、対応する。 (市) 来年度、解体を実施予定。 旧キャトル跡地は市にとっても重要な場所である。旧キャトルだけではなく、その周辺の皆様からも協力を頂いている。 ワークショップ等を行いながら、今年度と来年度の二か年で方向性を見出していきたい。
--	--

(総括)

会議へのご出席、ご意見等のご発言ありがとうございました。

市政の運営は、引き続き皆様の意見も反映しながら行ってまいります。

人口減少が、予測よりも早く進んでいます。最初は震災の影響と考えておりましたが、原因はそれだけではありません。

生まれる子どもの数が少なく、日本全体で人口減少が進んでいます。

人口減少が進むと、住みよいまちづくりを行いたくてもできなくなります。

人口減少に歯止めをかけながら、持続可能なまちづくり、住み続けたいようなまちづくりを進めてまいります。